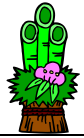


# 富士山自然学校通信 1・2月号



## 【新年を迎えて】

### 理事長挨拶

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年は3月末になって突然、受託事業が打ち切られ、「きらら」を出て活動するという、激動の1年でした。クラフトや織り等の体験事業は停止したままですが、エコウォーク等の観察会はほぼ例年通り継続され、広報活動に苦戦しながらも毎回新しい参加者を迎えることができました。また「きらら」に変わる会合の場所として月1回ですが「会員集会」を開催してきました。この中で、今まで以上に会員の皆さんから直接意見を伺うことになり、その点は一歩前進できたのではないかと思います。また、途上ではありますが、会のホームページやブログを開設することが出来、今後の活用が期待されます。

次年度は観察会活動をさらに活発にし、体験事業も検討してみたいと考えています。また、新年にはアイスクャンドル祭りも例年通り予定され、そちらへの協力も要請されています。まずはアイスクャンドルを成功させ、その後、新年度への準備をしていきたいと考えています。本年もよろしくお願い致します。

## 【11月の行事より】

### 11月3日（土）ハリモミ純林散策コース（山中湖エコウォーク）

今年度最後のエコウォークは紅葉のハリモミ純林散策です。旭日丘の「紅葉まつり」会場はちょうど紅葉のピークでしたが、こちらは少し早いようで、盛りを過ぎていました。曇り空の肌寒い日で、そこそこ残っている紅葉も鮮やかさにかけていたようです。ここのカエデはヒナウチワカエデ・コミネカエデ・ウリカエデ・ハウチワカエデなど種類が多く、紅さでは旭日丘に多いイロハモミジに負けるものの、より自然な紅葉が楽しめます。ここでも先月の台風による倒木が目立ち、迂回しないと前に進めない箇所もありました。参加者は9名です



### 11月7日（水）杓子山登山（会員観察会）

当初には予定されなかった観察会ですが、「花の都」や忍野方面からは正面にそびえ、富士の眺望にも恵まれる山なので、年度最後の観察会として実施しました。忍野からの鳥居地峠～高座山経由コースはハードなため、背後の明日見・不動の湯経由で登ります。不動の湯から先の車止めゲートまで、林道が続いている



ので、ゲートまで車で進入したのですが、かなりの悪路で大変でした。さらに大ざす峠まで林道を歩き、ここからが本格的な登りです。ハングライダー飛翔地から尾根を斜めに登り、最後は直登で杓子山頂に。晴れていれば忍野盆地から聳える富士の絶景と周囲360度の眺望が得られるのですが、あいにくの曇天と霧に邪魔されてしまいました。それでも大平山越しの山中湖やハリモミ純林の全景などを見下ろすことができました（写真の富士山は下見の際に撮ったものです）。参加者は10名です。



## 【11・12月の会員集会】

### 11月5日（月）平野コミュニティセンター

いつもの旭日丘公民館が使えないため平野コミュニティセンターに場所を移しての集会で、10名が集まりました。10月30日に行われた理事会で、来年度のエコウォークや今後の冬季講座、会員集会について検討したので、初めにその報告がありました。特に異論は出ませんでした。今年度のエコウォークは「雨天中止」が多かったので、来年度は雨天の場合、予備日を設けて出来るだけ実施すること等が提案されました。冬季講座は12月に「富士五湖の成り立ち」というテーマで実施が決まり、今年度はこの1回のみです。会員集会は12月に会食会を行い、1月～3月はお休み。4月初めに次年度第1回を行うことになりました。

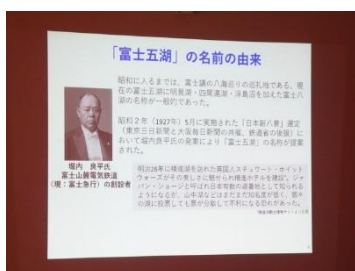
### 12月3日（月）「マ・メゾン」で昼食会

11月会員集会で、今年度最後の集会は昼食会ということになり、山中湖畔の「マ・メゾン」で行われました。当日は今年度最多の19名（女性10名、男性9名）が集まり、和やかにひと時を過ごしました。

## 【冬季講座】

### 12月10日（月）「富士五湖の成り立ちと水の起源」 講師 山本真也氏

前半は「富士五湖の成り立ち」について。初めに富士五湖は富士山の噴火による堰き止め湖で、噴火による陥没地にできたカルデラ湖ではない、と説明。富士五湖の各地で実施されたボーリング調査に基づき、本栖湖は約3万年前には原型があり、その後の噴火で徐々に現在の形になった。河口湖は約1万8千年前には原型があった。精進湖・西湖の辺りには約8,600年前には「せのうみ」と呼ばれた堰止湖があり、約1,200年前の「貞観噴火」では二度にわたる大量の溶岩流によって「せのうみ」が埋められ、精進湖と西湖に分断された。この様子は「日本三代実録」にも記録されている。忍野盆地でも約1万年前には湖があったが、約5,600年前には湿地に変わっていった。山中湖は約6,300年前までは草地在りだったが、約5,000年前に西側からの河川流入で湖ができはじめた。その後約2,700年前の斜面崩壊で流入が止まり、湿原化した。約1,000年前に東からの河川流入で現在の山中湖ができた。また湖底堆積物から、約2,000年前～約1,000年前の間で二度、植生が壊滅するような噴火の痕跡が見られる。



後半は「富士五湖の湧水」について。富士五湖周辺は富士山からの地下水と御坂・丹沢山地からの地下水が合流する場所となっている。17本の河川があるものの、その流入量は少なく、ほとんど地下水・伏流水の流入である。富士五湖の湖水中のバナジウム濃度は、富士山の地下水に比べてそれほど高くない。このことから富士五湖の湧水は御坂・丹沢山地からの湧水が多いといえる。山中湖では地下水位の分布から、湖東部から流入し、湖西部で流出していることがわかる。富士五湖における湧水は微量だが、富士五湖のすべてに生育するフジマリモの生育地では湧水の存在が確認されており、生物の生育や水質を維持する貴重な水源として重要なものとなっている。

現在はまだ調査地も限られており、遊水地を守るためには更なる研究が必要となっている。参加者は13名でした。

## 【1・2月の予定】

### 2月16日（土）アイスキャンドル祭り（交流プラザきらら）

←2月9日（土）水入れ作業（牛乳パック・ペットボトルのセットへの水入れ）

←1月21日（月）より牛乳パック・ペットボトルのカット作業を行う予定です。

\* 以上の作業へのご協力をお願い致します